

授業 科目名	【G】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)			【H】1		【H】2
	【I】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)	選 択		【I】1		【I】2
科目区分	基本科目					
授業形態	対面開講					
担当形態	単 独					
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブ タイトル	情報をデザインし、発信する力を育む			担当者	見崎 浩一	
授業概要	【概要】 この授業ではメディアの進化、フェイク情報、アテンションエコノミー等のメディアリテラシーに関する重要概念を学びます。同時にPowerPointによる情報の図解化やGoogleサイトによるWeb構築化等のデジタルスキルを基礎から習得します。学習成果を体系化した「メディアリテラシー教材(ミニプロジェクト)」を制作・発表し、インプットとアウトプットを往還させた実践的なリテラシー定着を目指します。 【実務経験を活かした授業】 新聞社でデジタルメディア運営の経験を持つ教員が、ネット社会におけるメディアリテラシーを学生たちと考えます。実践的なアクティブラーニングを通じて、学生がデジタルメディア社会においても適切に情報を扱えるように支援します。					
	【到達目標】 ① 現代メディアの構造(アルゴリズム・アテンションエコノミー)を理解し、その概念を他者に説明できる。 ② 偽情報・誤情報(フェイク情報)や認知バイアスに対し、ファクトチェックやクリティカルシンキングを活用して正しく判断・対応できるようになる。 ③ PowerPointのSmartArtやGoogleサイト等のツールを用い、自らの考えを効果的に発信できるようになる。					
履修条件	特にありません。					
アクティブラーニングの方法	【－】 事前学習型	【－】 反転授業	【－】 調査学習	【－】 フィールドワーク		
	【－】 双方向アンケート	【－】 グループワーク	【－】 対話・議論型授業	【－】 ロールプレイ		
	【○】 プレゼンテーション	【－】 模擬授業	【○】 PBL	【－】 その他		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	○ (やや当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)				
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)				
他科目との関	「情報リテラシー」で扱う内容やスキルは修得済みであることを前提として授業を実施します。					
教科書	授業中に、適宜、資料を配布します。 また、必要に応じてプリントを配布します。					
参考書	坂本旬／山脇岳志(2021年)『メディアリテラシー 吟味思考を育む』時事通信社 山口真一(2022年)『ソーシャルメディア解体新書 フェイクニュース・ネット炎上・情報の偏り』勁草書房					
評価方法	授業ごとの演習成果物や課題等を点数化して、加算方式で評価します。 各授業の振り返りと学習の成果物(15%)、授業演習課題(30%)、アクティブラーニングへの参加姿勢等(30%)、最終課題(ミニプロジェクト)の成果物(25%)					
フィードバック方法	Google Classroomを使用し、提出された課題についてのコメント等のフィードバックをします。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」とする。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。					

授業 科目名	【G】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)	区 分	開講年次	【G】1	単位数	【G】2
	【H】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)			【H】1		【H】2
	【I】 アクティブラーニング演習(メディアリテラシー編)	選 択		【I】1		【I】2
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス、イントロダクション メディアとリテラシー 予習: 「メディアリテラシー」をネット検索し、ノートにまとめる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
2	情報をデザインする①: SmartArtで「構造を見える化」 予習: PowerPointを操作し、SmartArtを触ってみる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
3	情報をデザインする②: アニメーションで「理解の順序」を設計 予習: YouTubeで優れたプレゼン動画を探し、視聴する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
4	Webで発信する①: Googleサイトの構築基礎 予習: 教育系Webサイトを複数閲覧し、特徴をリストアップ(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
5	Webで発信する②: Googleサイトの構築基礎 予習: 解説系Webサイトを複数閲覧し、特徴をリストアップ(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
6	メディア情報社会①: メディアの進化と歴史 予習: 自分のメディア習慣が変わった瞬間を3つ書く(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
7	メディア情報社会②: 情報拡散のメカニズム 予習: 過去にSNS拡散された投稿を見つけ、内容を記録(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
8	メディア情報社会③: アテンションエコノミー 予習: 1日のスマホ利用時間を分析、記録する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
9	メディア情報社会④: フィルターバブルとエコチェンバー 予習: 政治や社会のトピックのコメント欄を仲間と比較する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
10	誤情報を見抜く①: フェイクニュース(事例研究) 予習: フェイク情報事例の記事を読み、なぜ拡散したかを考える(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
11	誤情報を見抜く②: 認知バイアス 予習: 自分に思い当たるバイアスを振り返り、メモする(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
12	誤情報を見抜く③: ファクトチェックとクリティカルシンキング 予習: 日本のファクトチェックサイトを調べ、特徴をまとめる(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
13	学びを発信①: ミニプロジェクト(構想・制作) 予習: ペルソナ(人物像)を決め、ミニプロジェクトを立案する(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
14	学びを発信②: ミニプロジェクト(制作・発表準備) 予習: ミニプロジェクト制作を進める(60分程度) 復習: 下記「その他」参照(120分程度)					
15	学びを発信③: ミニプロジェクト(発表発表・まとめ) 予習: ミニプロジェクト発表に向け最終調整する(60分程度) 復習: 授業内で終了しなかった課題等を実施して提出する(120分程度)					
その他	復習: 授業演習の制作物をブラッシュアップして提出ないし授業時の課題をGoogleフォーム等で回答する。GoogleClassroomやGoogleフォーム等を活用します。課題や演習等の提出物はスマートフォンではなく、パソコン活用を強く推奨します。情報環境の変化、テクノロジーの進展等により、シラバス内容を入れ替え等することがあります。					